事例No.	2784
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人 bankup

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

大学生が地域との関わりを発展させることで当事者意識の高い若者が定着する仕組み
～おもしろい街に、おもしろい若者が定着していく不思議～

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



大学生が地域との関わりを発展させることで当事者意識の高い若者が定着する仕組み
～おもしろい街に、おもしろい若者が定着していく不思議～

特定非営利活動法人 bankup（ばんくあっぷ）

DATA

事　例　名：NPO法人bankup
所　在　地：鳥取県鳥取市栄町627マーチングビル1階
連　絡　先：TEL 0857-37-3373
　　FAX 0857-37-3374
　　E-mail info@bankup.jp
ホームページ：https://www.bankup.jp/

取組の概要

中川代表理事が鳥取大学在学中、地域に若者が関わる面白さを後輩につなげたるため立ち上げた。地域への当事者意識を「面白がる」と定義し、鳥取を面白がる人材を支援してきた。立ち上げ当初より鳥取県の農山村ボランティアの取り組みに関わり、それ以外にも自主的な企画を実施し、経験を積み重ねる中で、地域おこし協力隊支援や中小企業支援など若者が地域に関わる場を増やし、卒業生が鳥取に残るようになった。

評価された点

- 地域の中間支援組織として多彩な活動を行い若者が地域と関わるきっかけを創出する仕組みを構築している。また、20年間にわたって延べ7,000人以上の大学生を農山村ボランティアとして地域へ派遣している点を評価。
- Iターン42名（継続28名）と実績をあげていることを評価。
- 人口減少社会の到来と次世代の感性を踏まえると、学生と地域の協働をどう促進するかは重要課題であり、いち早く20年前から取り組んでいる上に持続的に続けている点を評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2000年～2001年
地元社会人との交流
メーリングリストを中心にしたやり取りと企画支援等。

2002年
・鳥取に面白い社会人がいるから後輩につなぎたい!

組織の立ち上げ
・創業者中川氏が、地元社会人との交流や企画のお手伝いが、鳥取大学生にとっても深い学びになることから“学生人材バンク”を立上げる。



2004年～
・コーディネート予算がつく。
・鳥取県との協働事業。

農山村ボランティア事務局受託
・県内全域に活動エリアが広がる（当初は13地域）。



2015年～
・地域×大学生というブランディングが次の仕事を生み、さまざまな経験を積むことに。

鳥取銀行との提携
・地域おこし協力隊の後方支援をキッカケに連携。
・中小企業の外部人材活用の取り組みへ進化。



・地域内連携から地域外人材連携へ。

2020年

コロナ禍でも進む姿勢
・コロナ禍の仕事づくり。YELL FOR事業を開始。2021年からは休眠預金も活用。
・オンラインを活用した関係性を生み出す仕組み。





2022年

20周年法人名変更
・活動が20周年を迎え、大学生以外との企画実施も増えたため、法人名をbankupに変更。

今後の展望
・外部人材を通じた多様な働き方を実践できる仕組みへ。
・企業との連携を増やし地域経済の底上げをする。
・高校生の地域プロジェクトの伴走支援。

受賞者のコメント

大学在学中に“おもしろそう”という動機で始めた活動も、20年経過し、後輩たちが鳥取で活躍するキッカケになりました。学生も地域の方も小さな“やりたい”を具体化して続けたことで生まれた価値だと感じています。周りの方が私たちを面白がって応援してくれたおかげです。このノウハウを鳥取に留めず、全国で地方大学生×地域のプロジェクトを作っていくお手伝いにつなげることが、次のステップだと感じています。